

調査研究報告書

議員名 樋口秀洋

令和 6 年度の政務調査活動の主な活動実績は以下の通りです。

令和 5 年度に続き、農業地帯である安芸市と芸西村の今後の発展を研究するため、将来的な「脱農業」の在り方を模索。あらゆる方面の地場産業を中心に現地調査を行った。県会議員の業務として一泊調査が困難なこともあり、全てが日帰り調査となり調査に限界を感じた。

県東部の経済的な遅れの大きな一因は高速道路完成の遅延にあり、①特に県東部を走る国の高規格道路の整備と経済波及効果を中心に現場の視察を重点的に行った。②また高速道路や高規格道路の開通で誘客が伸びている一次産業のサービス化③地場産市場や道の駅の、成功例や失敗例も調査対象とした。

それにしても、日帰り調査が可能な道の駅は半数が成功例とは思えないほど金太郎あめ状態だった。高速道路や高規格道路ができたから客が来るとの前提で設置したような施設のなんと多いことか。その中でも位置的有利性もあるが、徳島県鳴門市の道の駅はオリジナル商品の工夫を行い、全国的にも集客力の強い道の駅となっている。

その他、岡山県の総社インターに隣接する大型流通施設はインター直近に無理のない戦略で作られており、本県の、特に県東部という地理的尻尾から見ると羨ましい地理的条件であった。

また、中四国の商店街や高知市の商店街で人手の調査をすると、回数を重ねることで、各商店街の歩行者年齢層や、ブラ歩きと消費者の比率が分かってきて、それに見合う商店街づくりの必要性が、見えてきた。これは過疎地の商店街の企画に利用できそうであった。そのほか、県議会質問の関連施設の調査を行い本県とのレベルの違いが分かり、質問内容に一層の確信が持てた。

その一方で、四月に発生した宿毛市の地震現場や、令和7年3月に発生した愛媛県今治市の大型山火事の現場視察も行った。宿毛地震は予想以下の被害規模で、今治市の山火事は予想以上の規模に驚き、正に現地調査の意味があった。

日常的な調査は、高知市でマスコミ関係者や中小企業経営者や県庁職員やそのOB、さらには県民などと意見を交換。また安芸市と芸西村の各所で経済や政治や日常的な県民生活の情報交換を行った。